

令和6年10月23日

第6学年保護者の皆様

廿日市市立阿品台東小学校長 柳川 大蔵

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

清秋の候、皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校教育に対し、ご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、4月に全国の6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。今回の結果から把握した各児童の学習や生活における実態をもとに、今後の指導内容や指導方法の改善・充実を図ってまいります。なお、これらの内容については、学校ホームページにも掲載します。

1 教科に関する調査

国語

本校平均正答率 69% 広島県平均正答率 69% 全国平均正答率 67.7%

【重点課題】

- ①自分の考えが伝わるように、資料を活用するなどの表現を工夫することに課題がある。
- ②登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

【重点課題に対応した指導内容及び方法】

①に対して

- ・話したり聞いたりする場面で、相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫するよう指導する。音声言語以外に資料を使いながら話したり、録画した様子を観察することを通して、どのような工夫が効果的だったかを自覚したりできるようにさせる。

②に対して

- ・登場人物の行動や会話などについて、登場人物相互の関係と結び付けながら想像したり、場面の様子と人物の心情の関係に着目したりして読み取ることができるように指導する。
- ・長い文章を抵抗なく読むことができるように、日常の音読や読書活動の充実を図る。

算数

本校平均正答率 62% 広島県平均正答率 64% 全国平均正答率 63.4%

【重点課題】

- ①球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。
- ②道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

【重点課題に対応した指導内容及び方法】

①に対して

- ・立体の体積の公式とその意味を振り返ったり、球を半分に切った模型から球の直径が捉えられるよう指導したりする。具体物を用いた実感を伴った学びを積み重ねていく。

②に対して

- ・道のりが等しいことだけでなく、かかった時間が短いことも説明できるようにする。また、道のり÷時間を用いて速さを求めることで二人の歩く速さを確認できるようにする。
- ・式や言葉を使って説明したり、文章に書き表したりする活動を大切に指導する。

2 生活習慣や学習指導等に関する質問調査（主なもののうち肯定的解答）

本校結果と全国結果を比較した場合、次の事項は、特に本校児童のプラス面（○）、マイナス面（△）といえます。

○友達関係に満足していますか。 (本校 97.3% 全国 91.1%)

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 (本校 100% 全国 96.7%)

○5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
(本校 86.8% 全国 81.9%)

○5年生までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
(本校 86.9% 全国 84.3%)

△授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。
(本校 73.7% 全国 84.9%)

△自分には、よいところがありますか。 (本校 78.9% 全国 84.1%)

△困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
(本校 60.5% 全国 67.1%)

△学校に行くのは楽しいと思いますか。 (本校 76.3% 全国 84.8%)

△普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。【4時間以上】
(本校 31.6% 全国 17.7%)

△普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。
【4時間以上】(本校 15.8% 全国 11.9%)

【今後の取組】

○自己肯定感を高めていくことができるように、授業の中で意見を交流させたり、様々な行事の中で役割をもたせたりして、振り返りなどで互いに評価し合う機会を設け、自分のよさを感じることができるように指導する。(学習・生活)

○学校の楽しさが感じられるような行事や友だちと交流する場面を増やす。また、学習が楽しいと思えるように授業改善する。(学習・生活)

○指導事項の系統性を考えた授業を行ったり、実生活の中から学習課題を設定したりし、学習のつながりを感じられるように指導する。(学習)

○困った時に相談しやすいように、日頃から全職員で児童に話しかけたり、生徒指導主事による全児童面談で児童の思いを聞いたりする。また、こころの窓口について再度担任が周知していく。(生活)

○スマートフォンやメディアとの付き合い方や睡眠の大切さについて、課題が見られる。「生活きりり週間」の際、児童に改めて自分の課題について考えさせ、保護者とともに課題克服に取り組んでもらう。(生活)

学校では、これらの結果を受け、よりよい学校教育に向け、全教職員で共通理解を計りながら取組を進めてまいります。改善に向け、学校だけでなく、家庭・地域がそれぞれの適切な役割を果たしつつ、連携・協働した取組が行われることが重要です。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。